

# 2009 ようこそ！農村

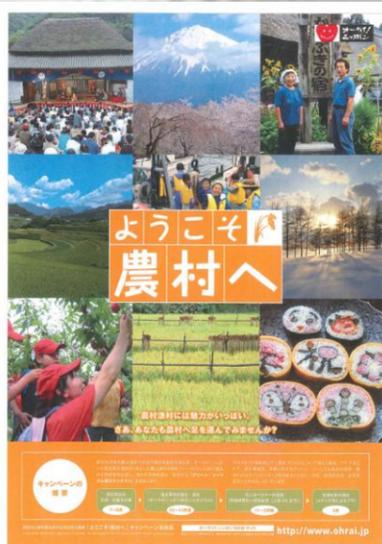
## へキャンペーン結果

平成 21 年 7 月、オーライ！ニッポン大賞受賞地域やグリーン・ツーリズム(GT)の実施地域等、農村、山村、漁村への大都市住民の旅行機会を増やすために、農村へ行く優れた旅行商品のコンテストを実施します。応募いただいたなかから優秀作 5 点を選定し、地方シンポジウム開催時に表彰するとともに、モニターツアーの実施に向けて支援しました。

モニターツアーの実施結果を受けて、平成 22 年 3

月 10 日開催の第 7 回オーライ！ニッポン全国大会において、優秀賞のモニターツアー実施内容のプレゼンテーションやグリーン・ツーリズム商品の今後の展開についてパネルディスカッションも行ない、更なる商品のアピールを展開しました。この一連の活動を「ようこそ！農村へ」キャンペーンとして、オーライ！ニッポン会議

は、会員とともに都市と農山漁村の共生・対流を推進しました。平成 21 年度のキャンペーン活動とグリーン・ツーリズム商品コンテスト優秀賞に選ばれた 5 つの地区のツアーの結果をご紹介します。まずキャンペーンの中心となるグリーン・ツーリズム商品コンテストについて説明します。



## グリーン・ツーリズム

### 商品コンテスト概要

まず優れたグリーン・ツーリズム商品を発掘するために、グリーン・ツーリズム商品コンテストを実施した。応募の要件や優秀賞への支援・特典は以下のとおり。

#### ★応募の要件

◆都市との交流に取り組む、あるいはこれから取り組もうとしている農山漁村地域の団体・関係者(地域協議会、JA、NPO、市町村及び農業者等)と旅行業の資格を有する事業者(旅行会社、運輸・物流会社、観光協会等)との共同提案。

◆1泊2日以内(日帰りも可)の短期の日程の商品。

◆原則、平成22年 3 月までにモニターツアーを実施予定

◆次年度以降も継続的に取り組む予定の企画(商品)

◆応募受付期間・・・平成21年9月18日(金)まで・・・今年度の募集は今回のみ

◆選定予定件数・・・優秀賞 5点

◆表彰式・・・平成 21 年秋に開催予定の「オーライ！ニッポン地方シンポジウム」において、選定事例を発表、表彰状を授与。

#### ★選定事例に対する特典

◆モニターツアーの実施経費の一部を助成！

マイクロバスの借上げ費用、体験料、広告費、調査費など、モニターツアーを実施するために必要となる経費の一部(上限 50 万円)助成

◆商品概要等PRの場を設定！

オーライ！ニッポン地方シンポジウム、全国大会で、モニターツアーの実施結果等について事例報告

◆関係機関等に対して幅広く告知・PR！

受賞結果パンフ等を作成・配付、新聞や専門誌での記事掲載、オーライ！ニッポン WEB サイトをは

じめとした関連サイトでの情報発信、さらには各種メディアへのパブリシティ活動を強化するなど、関係機関及び一般消費者に向けて幅広く告知・PR。

このように、幅広く農山漁村へ行く旅行商品の応募いただき、その中から優れた企画商品をモニターツアーしていただき、またそのモニターツアーの内容等を幅広く国民各層に紹介することで、農山漁村への旅行やグリーン・ツーリズムへの関心を醸成することを狙っております。自家用車の旅、鉄道を活用したツアー、バス旅行、エコツアー、自然体験、食を楽しむ旅等々、農山漁村を舞台にユニークな旅行商品の応募をお待ちしています。

## GT商品コンテスト

### 優秀賞の発表

都市と農山漁村の共生・対流を国民運動として推進するにあたっては、さまざまな場面で都市生活者の農山漁村への訪問機会を創出し、グリーン・ツーリズムの認知度向上や普及啓発を図ることが求められていることから、「ようこそ！農村へ」キャンペーンの一環として、オーライ！ニッポン大賞受賞地域をはじめとした農山漁村地域をフィールドとした旅行商品の企画提案を公募し、それらの中から優れた事例を選定・表彰する「グリーン・ツーリズム商品コンテスト(以下「GT商品コンテスト」)」という。」を実施しましたところ、全国各地よりあわせて66件の応募をいただきました。

「ようこそ！農村へ」キャンペーンは、GT商品コンテストの企画提案の公募段階から選定結果の公表、モニターツアーの実施ならびにその成果の検証まで含め、商品化に至るまでの一連のプロセスを幅広く普及・PRしていくことで旅行事業者、業界におけるグリーン・ツーリズム商品の開発・販売に向けたインセンティブを高めるとともに、共生・対流の普及・定着を図るものです。

審査委員会(委員長:丁野朗(社)日本観光協会常務理事)による厳正な審査により、農山漁村の地域資源を活用し、農山漁村への訪問を促進する旅行商品として地域への貢献度や将来の市場創出の期待度が高い旅行商品を5件優秀賞として選定致し、11月18日和歌山市で開催した「オーライ!ニッポン和歌山シンポジウム」で優秀賞の表彰を行いました。

※ 優秀賞には、マイクロバスの借上げ費用、体験料、広告費、調査費など、モニターツアーを実施するために必要となる経費の一部(上限 50 万円)を助成しました。また、ツアー参加者に対するアンケート調査を実施しました。

#### ◆優秀賞5点とモニターツアーの内容

●とちか農村交流と野菜パワーの食育を学ぶ旅  
提案者:(株)わくわくホリデー(北海道)、共同提案者:北海道女性農業者倶楽部(通称:マンマのネットワーク)

◆目的エリア/北海道十勝エリア(清水町、鹿追町、新得町、芽室町)日程/1泊2日 催行予定日/12月18日(金)~19日(土) 募集人数/30名(最小催行人数10名)販売予定価格/15,000円 出発地/札幌市(JR札幌駅北口)

#### <商品のセールスポイント>

北海道十勝に点在するマンマのネットワーク(北海道女性農業者倶楽部)の職場などに立ち寄り、農業現場からの生の声を聞きます。食事は毎食、十勝ならではの食材を使ったメニューをご用意、地元の農家の方々と語りながら交流していただきます。また、初日には食育セミナーを開催。免疫学の権威である北海道大学の西村教授をお招きし、地場野菜を食べることから健康パワーを作り上げる食育を学びます。

●田舎で親せきを作ろう！まめで達者な鮫川村！田舎の美味しい食べものづくりや手造りハウスにて薪ストーブ懇談 紙すき体験やしいたけ駒打ち体験で地元の方と交流 提案者:(株)農協観光首都圏支店(東京都)、共同提案者:福島県鮫川村

目的エリア/福島県鮫川村 日程/1泊2日 催行

予定日/3月6日(土)~7日(日)募集人数/25名(最少催行人数15名)販売予定価格/14,800円 出発地/東京都(JR上野駅公園口)

#### <商品のセールスポイント>

都会にはない人との心温まるお付き合いや美味しい食材。共に共同作業をする中でお互いの中に何か新しい発見があれば人生が更に豊かなる。その典型がここ福島県鮫川村にあります。個性的であこがれの手造りハウスや昔ながらの家屋を改築した柏村宅、薪ストーブのある暮らしは都会では味わえないぬくもりを与えてくれます。村営の農産物加工・直売所「手まめ館」では地元のエゴマや大豆を使ったとうふ、味噌など、ここにしかない特産品がたくさんあります。

●都会の台所、通勤電車で漁師町へー横須賀漁師とワカメ刈りー 提案者:(株)風の旅行社・風カルチャークラブ(東京都)、共同提案者:栗山 義幸(漁業従事者・横須賀市)

目的エリア/神奈川県横須賀市 日程/日帰り 催行予定日/3月14日(日) 募集人数/20名(最小催行人数10名)販売予定価格/8,000円 出発地/横須賀市(京浜急行県立大学駅)

#### <商品のセールスポイント>

観光用ではなく、漁師さんの普段の生業の一部に関わらせてもらえます。通常、仕事で使用しているワカメをそのまま刈り取らせてもらえ、自分で刈ったワカメを茹でたり、塩蔵するなどの加工も体験できます。刈ったワカメはお土産として持ち帰るだけでなく、横須賀という都市近郊で漁を生業としている漁師の方に、漁業の今昔の話や、魚の流通の話をお聞きします。漁業の現場の関係者から話を聞く機会はなかなかなくとも貴重な機会です。



●体験から交流へ～交流から定住へ 今ここにある和歌山「恵の故郷・山海巡りシリーズ」第1回 二地域居住の里・日高川町へ 提案者:ゆめ倶楽部21(和歌山県日高川町の体験交流受入れ団体)、共同提案者:(株)日興トラベル

目的エリア/和歌山県日高川町 日程/日帰り 催行予定日/3月27日(土) 募集人数/40名(最小催行人数20名)販売予定価格/8,000円 出発地/大阪市(JR大阪駅)

#### <商品のセールスポイント>

ニューシニア(団塊の世代以上)の中でも、特に田舎暮らし(二地域居住・移住)、農業・漁業、食について関心の高い人たちをターゲットとして、和歌山県の紀北から紀南の各地を順に巡りながら、体験から交流、交流から定住をテーマに学ぶ旅シリーズ(移動実地型カルチャースクール)。第1回目となる本ツアーでは、日高川町を巡り恵み豊かな山里での農業を学び味わい体験をする旅を実施します。和歌山650kmの海岸線と森の国に生きる人々のまちづくりに都市部シニアが出会い、交流、拠点作りをする旅です。

●古事記の里で夜神楽を楽しむ！「あはれ あなおもしろ あなたのし あなさやけ おけ！」～神様と一緒に 地元住民と楽しむ神楽 提案者:庄原市観光協会連合会(広島県)、共同提案者:(有)道後タクシー・道後観光

目的エリア/広島県庄原市 日程/1泊2日 催行予定日/11月21日(土)~22日(日)募集人数/20名(最小催行人数15名)販売予定価格/23,800円 出発地/庄原市(庄原バスセンター、食彩館 しょうばらゆめくら)

#### <商品のセールスポイント>

旅行会社、バス事業者等を含めて行程内のすべてのサービスを地元業者が行う着地型バスツアー。野菜から比婆牛、ゴギ、山菜、地酒、りんごなど、地元食材にこだわった食事に加え、一日氏子となって神楽の準備を手伝ったり、地元の人たちと一緒に社殿で神楽を觀賞するほか、地元ガイドによる古事記の解説を聞きながら熊野神社を参拝、東城のまちなか散策、刀匠の道場見学など、地域住民との交流機会が盛りだくさん。宿泊は、国定公園帝釈峡湖畔に立

地するホテルとなります。

※ ようこそ！農村キャンペーンは、今後モニターツアーの広報等を通じてキャンペーンを盛り上げ、平成22年3月10日開催予定のオーライ!ニッポン全国大会でツアーの結果報告を行なう予定です。

## 和歌山シンポジウム開催

平成21年11月18日(水)、19日(木)の二日間オーライ!ニッポン和歌山シンポジウムを和歌山市のダイワロイネットホテル和歌山で開催、全国から約250名の参加者がありました。18日のシンポジウムは3部構成で実施。

養老孟司代表、共催の農林水産省吉村馨農村振興局長の挨拶、同じく共催の和歌山県からは知事のメッセージを大門達生(おおもんたつお)地域振興局長が代読し、シンポジウムは開会しました。



### 第1部 「ようこそ！農村へ」

キャンペーンについて、GT商品コンテストの審査委員長も務めた丁野朗 社団法人日本観光協会総合研究所長からGT商品と観光による地域活性化の必要性、最近の観光の動向を交えて、今回のGT商品コンテストの目的や優秀賞に選ばれた各商品の魅力やGTが果たす役割を講演しました。引き続き、優秀賞の表彰を来ない、受賞団体の代表者による応募賞品の作成の経緯や地域づくりへの思いなどを発表しました。



優秀賞受賞者と丁野企画委員長



優秀賞のプレゼンをする庄原市観光協会連合会の吉川理恵氏

## ようこそ！農村へ

### キャンペーン

グリーン・ツーリズム商品コンテスト優秀賞決定の概要をマスメディアによって広報しました。

#### ★毎日新聞：朝刊全国版に掲載

東京12月2日付、大阪12月3日付、西部12月2日付、中部12月3日付、北海道12月2日付

#### ★交通新聞社「旅の手帖」(1月号)に掲載。

12月10日発売

★毎日新聞：朝刊全国版に掲載(2月25日、26日付) 全国大会開催の告知、グリーン・ツーリズム商品普及の事例紹介及びパネルディスカッション等

★交通新聞社「旅の手帖」(4月号3月10日発売)に掲載。優秀賞の広島県庄原市の神楽体験ツアーのレポートとその他4点の案内。

ました。

### ★その他、サンデー毎日1月と3月

サンデー毎日(3月30日号)に掲載



### 優秀賞モニターツアー実施

優秀賞に選ばれました「古事記の里で夜神楽を楽しむ!旅」をはじめとした5つのモニターツアーを実施して関係者は、参加した都市生活者から大好評であり、このツアー開発実施にかかわった関係者の皆さんも来年もぜひやりたいと新たな意気込みに燃えております。

各モニターツアーの状況は下のとおり。

### ①古事記の里で夜神楽を楽しむ!「あはれ あなもしろ あなたのし あなさやけ おけ!」～神様と一緒に 地元住民と楽しむ神楽

実施日：平成21年11月21日(土)～22日(日) 1泊2日

参加人数：10名(男性5名、女性5名)

参加者：広島市や福山市など広島県内の都市部からの参加。50代、60代が中心。

ツアー料金：15,000円

実施主体：庄原市観光協会連合会〔広島県庄原市〕



庄原市は、広島県の北東部に位置し、東は岡山県、西は島根県、北は鳥取県に隣接した県境の市で、広島市から90km、大阪市中心部からは約280km。平成17年に1市6町村が合併し、人口約41,000人、面積1246平方kmの広大な市となった。(西日本で第一位、香川県の約2/3)。標高150mの盆地から1000m級の中国山地まで、標高差が大きく、四季のはっきりとした自然豊かな里山である。

<行程表>

#### 【1日目】

広島バスセンター(7:45)＝定期路線バス利用＝庄原バスセンター着(9:37)＝さとばす乗車＝ゆめさくら＝古事記の路を通って熊野神社(ガイドが古事記の話をしながらの案内)～イザナミ茶屋でお茶を頂く＝峠の茶屋やまびこ(12:10～13:00) 地元の採れたて野菜を楽しめるヒバゴン井セットの昼食＝奴可神社参拝 神楽についての案内の後、地元の人といっしょに神楽の準備を手伝います＝錦彩館着(15:20) 夕食後、錦彩館発(20:

00)＝奴可神社で地元の人といっしょに神楽観賞(20:30～25:30)＝錦彩館着(26:10)

#### 【2日目】

錦彩館発(10:30)出発時間まで自由散策＝東城：酒蔵見学(地元のお酒を試飲)と東城の街並み散策＝かじや 昼食：五行御膳(12:40～13:40)＝西城：久保鍛錬道場(刀匠よりたたら製鉄の話と日本刀についての話を聞く)＝ゆめさくら(自由時間)＝さとばす乗車＝庄原バスセンター発(16:18)＝定期路線バス利用＝広島バスセンター着(18:07)

#### 「古事記をテーマにした行程 4つのポイント!」

- ①古事記を演目にした比婆荒神神楽
- ②イザナミノミコトが祀られたとある比婆のふもとにある熊野神社
- ③オロチから出てきた三種の神器の1つ 草薙の剣「日本刀」
- ④オロチ退治に使われた日本酒



1日氏子になって神楽準備の手伝い 笹の葉を5枚だけ残して後は取り除く作業。最後に軸を切りそろえて 同じ長さにしました。200本すべて準備完了。



江戸天保年間創業の造り酒屋「北村醸造場」で酒蔵見学。日本酒の試飲では「菊文明」など1本1本説明を受けながらの試飲。



久保善博刀匠 庄原市西城町で鍛錬道場をかまえる。全国の刀匠の作品が集まる新作名刀展で太刀部門最高位の賞「協会会長賞」

を受賞、名実ともに日本一となりました。鋼の研究者としても活躍されています。

#### ☆ツアー終了後のアンケート

ツアー全体の印象として全員が、「良い」もしくは「どちらかといえば良い」と回答。

特に内容については「比婆荒神神楽鑑賞」を8割の人が「とても満足」と回答。

#### ☆ツアー参加者の声(自由意見)

○神楽の準備を手伝うことは貴重な経験だ。いい思い出になる。

○地元の人と一緒に神楽を楽しめるこの雰囲気素晴らしい。神事では身の引き締まる思いだった。

○神楽を最後まで見たかった。途中で帰るのは残念。

○日本刀を実際に手にすると思ったより重く、昔はこれを腰から下げていたのが信じられない。驚きだ。

○田舎なのでトイレなどの不安がありました。ガイドさん他スタッフの方々の気配りが行き届き大満足です。料理も地産地消の食材で工夫をこらした特色あるもので、このツアーでしか食べられないもので大感激でした。そして何よりメインの夜神楽が地元の方々の温かいもてなしと出演者の卓越した技が今まで見た神楽の中で最高でした。そして神々を再認識されたことに感謝です。

## ②とちか農村交流と食育を学ぶ とってもおいしいバスツアー

実施日:平成21年12月18日(金)～19日(土) 1泊2日 参加人数:一般参加者12名(全員女性)・・・(注)参加者:札幌市などの都市部に住む、食に関心が高く活動的な女性。40代から70代まで幅広い世代が参加。ツアー料金:13,500円 実施主体:株式会社わくわくホリデー〔北海道札幌市〕  
注)このほかに、共同提案者であるマンマのネットワークの会員など18名が参加した。

<行程表>

### 【1日目】

札幌駅北口 08:00 発 == (日高町) == 清水公園(昼食)現地参加者合流 == 鹿追町町民ホール(食と農の健康づくりセミナー) 13:00～15:30 == 大平畜産の牧場見学 == 「森のキッチンかわい」にて地元食材による田舎(十勝)料理で交流会 18:00～20:00 == ぐったり温泉「レイク・イン」にて宿泊

### 【2日目】

ホテル出発 8:30 == マンマ会員の芽室町鈴木農場の食品加工施設「すずきっちゃん」(地元の大豆とこうじを使っての味噌づくり体験及び昼食会) 10:00～12:30 == 共働学舎新得農場(牧場見学とバター作り体験) 13:30～15:00 == 清水公園(現地参加者解散) == (日高町) == 札幌駅北口 19:00

### ★ツアーの4つの目的

- ①マンマのネットワークと都市に住む一般消費者の出会いと交流を作りたい。
- ②農業体験、特に十勝の特産品である大豆を使った味噌づくりで、日本食文化の再認識と、加工技術を伝えたい。
- ③食のセミナーで、身近な食育や健康を考える時間を皆で共有したい。
- ④美味しい料理をいっぱい食べて、土地に感謝したい。



講師の西村孝司北海道大学教授は、免疫学の権威。



マンマ会員の芽室町鈴木農場さんで、地元の大豆とこうじを使ってのお味噌づくりを勉強。



新得町の共働学舎さんで、この牧場で取れた牛乳を使ってのバター作り。

### ☆参加者の反応(アンケート調査より)

モニターツアー全体の印象を尋ねたところ、12名の回答者全員が「良い」と回答。

個別のプログラムでは、「農家のお母さん達との交流」について、全員が「とても満足」と回答したほか、「食育セミナー」や「国産大豆でのお味噌づくり体験」について満足度が高かった。

「ぜひ、訪問したい」(8名)と「機会があれば訪問してみたい」(4名)をあわせて、参加者全員が当該地域(十勝地域)への再訪の意向を持っていることが明らかになった。

### ☆ツアー参加者の声(自由意見)

- 食育セミナーをもっとゆっくりお聞きしたく思いました。次回も期待しています。
- 初日の夕食の味付けがとても良かった。量的には少なかったためか、口にすることができないものもあり、残念でした。
- 味噌作り、バター作りに興味があって参加しましたが、講演やディスカッションのお話も聞いて本当の食育の意味や地元の方々の活力が強く伝わり、衝撃的でした。その後の農家のお母さん方の自信に満ちた笑顔、本物を伝えたい意気込みが感じられ、エネルギーをたくさんもらったと思います。心地よい貴重な体験をさせてもらいました。
- マンマの会の皆様にはとても良くしていただき感謝しています。温かい気持ちになれたこのツアーは良かったです。
- 最後の共働学舎の対応が素晴らしく、人間的にうれしい想いが伝わってきました。この空気に触れられて楽しかったです。ありがとうございました。
- セミナーの時間が長く疲れましたが、食事その他の面では気遣いを感じられとても楽しく有意義な時間を過ごせました。マンマの皆様ありがとうございました。次回に期待します。食事は美味しかったです。

## ③田舎で親せきを作ろう！まめで達者な鮫川村 ～田舎の美味しい食べもの作りや手作りハウスにて薪ストーブ懇談、紙すき体験やしいたけ駒打ち体験で地元の方と交流～

実施日:平成22年3月6日(土)～7日(日)1泊2日、参加人数:23名(男性1名、女性22名) 参加者:Nツアー(株式会社農協観光)の自然体験・交流の旅「グリーンエコー」の会員が中心(18名)。このうち6名は鮫川村への訪問歴あり。夫婦で参加した男性1人のほか、20代の女性が1人。あとは全員が50～70代の中老年の女性。ツアー料金:14,800円、実施主体:株式会社農協観光 首都圏支店〔東京都千代田区〕

福島県の南端、東白川郡の北東部に位置。阿武隈高原南部の頂上部にあるため、山脈丘陵が連なり、村の大部分は標高400mから650mの範囲にある。郡山市、いわき市へは車で約1時間、福島市までは約2時間。首都圏からは、常磐自動車道及び国道349号経由で3～4時間の距離である。

<行程表>

### 【1日目】

JR上野駅(8:00) == 貸切バス == 開村式・昼食(温かいうどんの昼食) == 手作りハウス(紙すき体験としいたけの駒打ち体験・お茶懇談) == 地元食材の夕食 == ほっとはうす・さめがわにて宿泊

### 【2日目】

ほっとはうす・さめがわ == 移住者宅訪問・懇談 == 早春の山菜探し == 菅生の郷・・・料理体験(石窯ピザやみんなで手分けをして地元食材を使ったお料理・餅つきなどの昼食・薪ストーブを囲んで里山懇談) == 手まめ館直売所(お買物) == JR上野駅(18:30)



齋須さんの手作りハウス。村内材を使い、友人の大工さんと二人だけで作ったログハウス風の家はとてもお洒落。紙すき体験の様子

風呂桶のような大きな青い桶に入った原料液(楮の皮

を蒸して裂き、叩いてどろどろの繊維状態にしたものを、交替で棒をかき混ぜた後、トロアオイ液を入れ粘着性をもたせる。



地元食材を活かした野菜中心のお料理。ウド、ウルイ、コンニャク、フ



キノトウ、山菜の天ぷらなど地元農家のお母さん達が作ったヘルシーな家庭料理。

### ◎モニター

### ツアーのおすすめポイント

- ①都会にはない人との心温まるお付き合いや美味しい地元の食材
- ②個性的な手造りハウスや昔ながらの家屋を改造した家などでの懇談、紙すきやしいたけの植菌体験、餅つきやピザづくりなどの料理づくり体験
- ③地元のエゴマや大豆を使った豆腐や味噌など、鮫川村にしかないたくさんの特産品



早春の山菜探し 小雪の中、長靴に履き替え鮫川の上流域を歩き

ながら、フキノトウやセリ、よもぎなどを採る。2月に寒い日が多かった影響で、まだかなり小さく大漁(?)とはならず残念。セリだけは田んぼの畔下にあったので、各自でとっていただいた。目のいい方はフキノトウも少々採られた様子。

### ☆ツアー終了後のアンケート

ツアー全体の印象は、約7割が「良い」と回答。「どちらかといえば良い」も含めれば、95.7%とほぼ全員が好印象を持った。「どちらとも言えない」と答えた方が1人いたが、その理由としては、「宿で少人数なので皆集まり夜の座談がほしかった」と、より濃密な交流を求めていたことによるものであった。「菅生の郷でピザ作りや餅つきなど料理作りと里山懇談」については、参加者の8割以上が「とても満足」と回答した。一方、「早春の山菜探し」では、「不満」と「どちらかといえば不満」をあわせて20%を超えるなど、プログラムによって評価がばらついた。



### ☆ツアー参加者の声(自由意見)

- もう少し早春の天気の良い時期を選んで欲しい。募集名からしてももう少しつながりのもてる場が欲しい。集合写真を送って欲しい(つながりになる)。観光の場所(牧場等)を2、3欲しい。
- 私の生まれ育った所です(15才まで)。こんな良い所があったなんて知りませんでした。機会があったら主人と一緒に来たいと思います。食事がとても美味しかった。良い人たちに会えて楽しく過ごしましたありがとうございました。
- 山王の里では山菜をはじめ「おからのサラダ」を初めて食べました。おからがサラダで食べられるなんて初めて知りとても良かったです。
- 山王の里、とてもきれいで昼食も美味しくうれしかったです。以前は宿泊しましたが、今回は別のところに泊まれ違う場所を知ることが出来良かった

です。農協の担当下さった方々、いつもやさしく、ていねいに対応して下さりありがとうございます。勝手に親せきと思い、また伺います。

○宿で少人数なので皆集まり夜の座談がほしかった。

○星が見えなかったのが残念。

#### ④ 恵みのふるさと探し旅 ～里山の春を体感！桜咲く日高川町～

実施日：平成22年3月27日(土) 日帰り

参加人数：21名(男性5名、女性16名)

参加者：全員が団塊の世代(ニューシニア)を対象とした情報誌「フロンティアエイジ」の読者。50～60代の都市在住者(大阪市、神戸市など)が中心で、田舎暮らしに関心を持っている人が多かった。※フロンティアエイジとは、新時代の開拓者の意味。近畿2府4県で90万部発行。

ツアー料金：8,000円

実施主体：ゆめ倶楽部21〔和歌山県日高川町〕

<行程表>

JR大阪駅(8:00)＝貸切バス＝古民家レストラン「まる貴」(堺市から移住した細木さんが営む農家レストラン。田舎暮らしのお話しを聞き、創作ジビエ料理の昼食)＝加藤夫妻のセカンドハウス(堺市との二地域居住。フラワーガーデンでのティータイムと不耕起栽培見学)

＝農場に移動し有機野菜の不耕起栽培体験＝日高川交流センター(樹齢700年の大楠による巨樹セラピー)＝道の駅 San Pin(サンピン)中津で買い物＝道成寺(副住職から七不思議のお話し)＝JR大阪駅(19:00)



古民家を活用した農家レストラン「まる貴」。オーナーの細木貴夫氏は大阪府堺市から移住。



畑を掘り起こさず植物の根をそのまま残して地中のバクテリアに耕させる「不耕起栽培」

☆ツアー終了後のアンケート

ツアー全体の印象としては9割の方が「良い」もしくは「どちらかといえば良い」と回答。

個別プログラムでは、「農家レストランまる貴」の満足度が高かったが、「道の駅サンピン中津での買い物」や「道成寺散策」については「普通」との回答も多く、巨樹セラピーについては、「どちらかという不満」、「不満」と感じた人も多かった。

「ぜひ、訪問したい」と「機会があれば訪問してみたい」をあわせると、回答者全員が地域への再訪の意

向を持つに足る内容であった。

#### ☆ツアー参加者の声(自由意見)

○地元の方が、日高川町の魅力を一生懸命話してください、熱意が伝わった。

○町全体一つになり取り組んでいる姿勢は素晴らしい。もう少し若かったら、考えも変わっていたと思う。今日は、田舎の素晴らしい空気にふれることができた。

○野菜などの収穫、草ひきなどをお手伝いしたかった。次の機会を楽しみにしたい。

○地元の方の話が聞けて充実したツアーでした。あっという間に時間が経った。車の運転をしないので、気軽には来れないが機械があればまた来たい。

○加藤さんの暮らしは大変興味を持てた。フラワーガーデンと不耕起栽培にとっても興味があり、詳しい説明も良かった。

○もう少し体験が出来ると思っていたが、期待外れ。加藤さん宅での農業体験は体験とは言えない。

○日帰りのため、時間的に沢山のことを要望しても無理だと分かったが、このようなツアーは参加者を決めるために事前に選別すべきでは？参加者の目的と企画する側の内容のズレあり。

#### ⑤ 都会の台所、通勤電車で漁師町へー横須賀漁師とワカメ刈り

実施日：平成22年3月14日(日) 日帰り

参加人数：7名(男性3名、女性4名)

参加者：東京都に在住の、自然に興味があり、食や暮らしにつながるテーマに関心がある方々  
ツアー料金：8,000円(テキスト代、おみやげ用の生ワカメ1本含む)

実施主体：風の旅行社 風カルチャークラブ〔東京都中野区〕

<行程表>

京浜急行県立大学駅集合(9:30)＝徒歩で漁港へ移動(約15分)＝横須賀市で漁業を営む栗山義幸さんからワカメ養殖などについてのお話し＝交替で船に乗せてもらい、ワカメ養殖いかだを見学＝栗山さんがその日の早朝に水揚げした魚貝を売る一人朝市を見学＝徒歩で護岸に移動。港の水際までひっぱってきたワカメを皆で刈り取る。その後、ワカメ洗いや、茹で、塩もみ(塩蔵)などの作業を体験。合間に、ワカメしゃぶしゃぶを試食＝昼食(各自持参したお弁当等を食べるか、近くの食堂にて)＝栗山さんにワカメ漁にまつわる様々な話やワカメ漁以外のその他の漁法の話、現代漁業の話などを伺う＝漁港で解散(14:30)

#### ★モニターツアーのセールスポイント

①観光用ではなく、漁師さんの普段の生業の一部に関わらせてもらえます。

②普段仕事で使用しているワカメをそのまま刈り取らせてもらえ、自分で刈ったワカメを茹でたり、塩蔵するなどの加工も体験できます。

③自分で刈り取った生ワカメや加工したワカメはおみやげに持ち帰れます。

④漁師の方に、漁業の今昔の話や、魚の流通の話をお聞きします。漁業の現場の関係者から話を聞く機会はなかなかなくとも貴重な機会です。



講義の後、漁船に乗り込んでワカメ養殖の現場海域へ出発。安全のため、参加者はライフジャケットを着用。



ワカメ養殖のいかだから、少しワカメを持ち上げて見せてもらう。ワカメはこのように株ごと吊り下がって育つ。遠くに見えるのは猿島。



水揚げされたワカメ。茎の太さに一堂びっくり。色は緑ではなく茶色ということも知らない方が多かった。



お湯に入れた瞬間、パッと鮮やかな緑色に早変わり。こうして普通にイメージするワカメ色になります。

#### 平成22年度実施にむけて

グリーン・ツーリズム商品コンテストを核にした「ようこそ！農村へ」キャンペーンは、3月31日、企画委員会(丁野朗 座長、井上弘司座長代理他7名参加)を開催し、平成21年度のキャンペーン活動の取り組み結果と平成22年度の取り組みについて、意見交換を行ないました。主な意見は、①このツアーを実施した旅行会社として得たもの、判ったことが他の地域にも参考になるのではないかと。②特に商品の売り方の虎の巻が受入れ地域に参考となるのではないかと。③若者、特に男性の旅行率が低下していることから、親子の体験、家族のグリーン・ツーリズムなどの新たな視点での促進が重要ではないかと意見がありました。

今後は、グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、観光資源など縦割りで地域の資源を発掘・商品化するのではなく、地域そのものを上手くいかしたツアーで、交流を進めていく必要性があります。

国民の農山漁村への関心は高く、優れた取組を実施しているオーライ!ニッポン大賞の受賞地区の旅行商品化が大いに期待されるとことです。グリーン・ツーリズム商品コンテストを含む「ようこそ！農村へ」キャンペーンは平成22年度も実施する予定です。より多くの地域、関係者からの応募を期待しています。

オーライ!ニッポン会議  
財団法人 都市農山漁村交流活性化機構  
(愛称:まちむら交流きこう)地域活性化部  
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町4-5 神田金子ビル5階  
TEL 03-4335-1985(直通)  
FAX 03-5256-5211

平成22年度の「ようこそ！農村へ」キャンペーンは、オーライ!ニッポン会議が実施主体となって展開します。グリーン・ツーリズム商品コンテストへ沢山の地域からの応募を期待しています。